

第3回議会基本条例特別委員会会議録

- 1 開会日時 平成25年7月26日（金）午後3時0分
- 2 閉会日時 平成25年7月26日（金）午後4時2分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 佐々木雄司君 6 番 治徳 義明君 7 番 原田 素代君
8 番 金谷 文則君 10 番 松田 勲君 15 番 岡崎 達義君
18 番 小田百合子君
- 5 欠席委員
13 番 福木 京子君
- 6 事務局職員出席者
議会事務局長 富山 義昭君 主 任 大饗 剛君
- 7 協議事項 1) 議会報告会について
2) その他
- 8 議事内容 別紙のとおり

午後3時0分 開会

○委員長（岡崎達義君） 定刻になりましたので、第3回議会基本条例特別委員会を開きたいと思いをします。

本日は、お暑い中、しかも忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

本日は協議事項で議会報告会についての要綱をまとめていきたいと思いをしますので、よろしくお願いをします。

お手元に資料として1枚物が配られておると思いをします。それで、各市の要綱の中に入っているものをずっと表にしてまとめていただきました。それで、実施地区とか担当地区の決定方法、班編成の方法などなど、順番にどうすればいいかというのを決めていっていただきたいと思いをします。それで、それをまとめた上でこの間いただきました議会報告会資料の中のどこかに当てはめるような形で、一応たたき台を、要綱を次回までにつくっていただいて、そこでもう一度検討していきたいと思いをしますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、実施地区なんです、どういうふうな形でどういう地区で実施していけばいいかということから入ってきたいと思いをします。

最低でも年に1回ということですので、赤磐市では4地区ありますので、4地区で年に1回やればずっとくるっと回ることになり、班編成で3班ぐらいに分けていって、全ての地区に当たるということにもなりますので、検討よろしくお願いをします。

○委員（佐々木雄司君） 委員長、いいですか。

○委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 今総務文教委員会のほうで地域と、これは継続審議になっているんですが、地域と議員のかかわり合いをどのようにしていけばいいのかということを検討することになってるんです。そこら辺の整合性もとっていかねばいけいけいではないかなというふうに、この資料見ながら思ったんですが、そこら辺どんな感じに考えていきますでしょうか。

○委員長（岡崎達義君） 地域とのかかわりの整合性というのはちょっと意味わからんのですが、各地区を回っていくとすれば皆さんが全地域を回るということになりますので、ですから各地区から選出された方がその地区だけに寄ってしまうということもなくなると思うんです。赤磐市では4地区ありますので、4回開けばほとんど当たっていくということになりますのでね。佐々木委員が考えられてるその地域とのかかわりというのもなくなるんじゃないかなと思うんです。

○委員（佐々木雄司君） いいですか。

○委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ。

○委員（佐々木雄司君） いや、私が考えてるというより総務文教委員会のほうで扱ってるもう継続審議の案件なんで、私が云々という話ではないと思いをします。当然総務文教委員会の中で

私の考えは述べますが、総務文教委員会の中で考えていくことなので。

整合性という意味のほうがおわかりにならないということだったんですが、要するに地域と、別の委員会のほうで地域と議員のかかわり合いについて今継続審議をやっていると。そのところのどういう審議をこれからしていくのかということの内容がわからなければこちらが先に先行してしまって、こうですよというものを示してしまうと向こうの委員会の決議であるとかいわゆる意向、考え、取り扱っていく内容というものにも影響を与えかねないんで、そこら辺の整合性を先におとりになられてからということのほうがいいんじゃないかなと少し私は感じたわけなんです。

○委員長（岡崎達義君） そういう意味で。それはもうこれは独立した委員会ですので、特別委員会として独立してますので、ここで決めたことが総務委員会で影響を与えてもそれは仕方のないことなんで、ここで決めていきたいと思ってます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（岡崎達義君） どうぞ。

○委員（原田素代君） 佐々木委員がおっしゃっているその継続審議という意味がわからないんですけど。もしよければ、おっしゃってる地域との整合性という意味、要するに総務文教ではどういうふうに議論されてるのか、通じなかったんですけど、教えていただけます、簡単に。

○委員（佐々木雄司君） 継続審議で今まだそこら辺の考え方をどういう感じにしていけますかということのまだ入り口なんで、問題提起が行われているだけですから、これから出てくる内容だと思います。

○委員（原田素代君） はい、原田です。

○委員長（岡崎達義君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 要するに、全然わからないんですけど、今ここで議論、基本条例特別委員会で議論していこうとするこの実施地区割りのことに関する地域との整合性を議論されてるというふうに理解したらいいんですか。それとは全然関係ない話でもないわけですか。見えてきません。

○委員（佐々木雄司君） 要するに、重なり合う部分というのが出てくる可能性があるんで…

…。

○委員（原田素代君） 何と。ここと。

○委員（佐々木雄司君） そうです、要するに地域割りですね。

○委員（松田 勲君） 関係ないかな。

○委員（佐々木雄司君） 関係ないかな。

○委員長（岡崎達義君） これは関係ないですね。

○委員（原田素代君） 言ってる意味がわからない。

○議長（小田百合子君） 別問題ですからね。

○委員（松田 勲君） いいですか。

○委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ、松田委員。

○委員（松田 勲君） 佐々木君と同じ委員会なんであれなんですけど、そういう意見が出されて、審議してもらいたいという意見が出されて、それで今終わってるわけで、具体的にこうしてこう、ああしてこうはありません。ただ、この委員会は特別委員会で、各委員会から代表で来ているわけですから、それは一切関係ないと思いますんで、この委員会としてこういうふうにやっついこうということで決めればいいんじゃないかと私は思います。

○委員長（岡崎達義君） 佐々木委員、そういうことですので、ここは独立した特別委員会でするので、ここで決めていけばそれでもいいと思います。実施地区をどういうふうにするか、各旧町単位でやるか、中学校単位でやるかという。

はい、どうぞ、松田委員。

○委員（松田 勲君） 私は、瀬戸内に、最初書いてますけど、旧町単位というのもあるんですけど、やはり中学校単位のほうが一番わかりやすいんじゃないかなと。地域のあれもたしか中学校単位だったと思うんですけど、地域の何かありますよね、地域、何でしたっけ。

○委員（原田素代君） 子供の子育て支援のこと。

○委員（松田 勲君） 支援じゃなくて、何か審議会みたいな。地域の親が集まって何かある。とにかく中学校単位のほうが一番、地域によって問題とかいろいろ違うこともあるんで、できれば中学校単位のほうがいいんじゃないかな。小学校まではちょっと分け過ぎだと思うんで、中学校単位ぐらいがいいんじゃないかなと思いますけど。

○委員長（岡崎達義君） ただ、その場合、会場の設定ということも問題になってくるわけですよ。ですから、この山陽地区の中学校単位だったら、例えば桜が丘中学校、それから高陽……。

○委員（松田 勲君） 赤坂、吉井。

○委員（原田素代君） どういうこと。4地域っていうのは……。

○副委員長（治徳義明君） 中学校という話……。

○委員（原田素代君） ああ、4地域は関係なく。そしたらすごい多い。

○議長（小田百合子君） でも全部を1回でする必要はないわけだから、この瀬戸内だって3地区になってるでしょう。だから、次の年には別の3地区っていうそういう回り方じゃないかなって思うんだけど。

○委員（原田素代君） 旧地区をちょっと置いといて、中学校……。

○副委員長（治徳義明君） ある程度ちょっと、私も一遍新見市のほうに報告会を視察させていただいたことがあるんですけども、ちょっとある程度大きくしとかないと、もう来られる人のほうが少なかったり、現実はそのような状況が、最初はある程度来られるかもしれませ

んけども、本当に報告するほうの人数のほうがもう圧倒的に多くて、ちょっといびつな感じになってくると思うんで、ある程度大きいほうがいいんじゃないかなとは思いますが。

○委員長（岡崎達義君） 一応ほんなら中学校単位ぐらいにして。

○委員（原田素代君） 5つ。

○委員長（岡崎達義君） 5つ。

○副委員長（治徳義明君） 5つかな。

○委員（原田素代君） 山陽だけが2つであとは1つ。

○委員長（岡崎達義君） 山陽はまあ場所的にはこの下の公民館と、それからいきいき交流があるから、2つ確保できるし。あとの地域はそれぞれの地域のあれができるから。

○委員（松田 勲君） 公民館……。

○委員（原田素代君） 一遍は無理だね。

○委員長（岡崎達義君） 回り持ちでね。

○委員（原田素代君） 1年間に5地区を全部やる。

○委員長（岡崎達義君） 5地区を4年間で。問題が起こる、問題が起こるとしたら何ですけど、ちょっといろいろな出来事があるときはほかの地区で2回とか、吉井で2回とか、そういうこともあり得るわけですから。それは後々に決めればいいんですけど、それはこの委員会で決めるようにはなってませんのでね。何か班会をつくって決めるとか、それから議会運営委員会で決めるとか、そういう形になりますので。

○委員（原田素代君） 細則は。

○委員長（岡崎達義君） 細則というんか、どこで開くかという……。

○委員（原田素代君） 基本的なことは。

○委員長（岡崎達義君） 開催の時期というか。

○副委員長（治徳義明君） 基本的な考えだけ。

○委員長（岡崎達義君） そうです、そうです。だから、要綱を決めるだけですから。ここで運用方法までどうこうするということはできませんので。

○委員（原田素代君） でもそこまでイメージしとかないと。

でも逆に、はい、委員長。

○委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ。

○委員（原田素代君） 逆に、5つということは、結局旧地区、4地区ですから、実質は各地区ごとに1回ぐらいになるわけですね。山陽だけが人数が多いから2回になるけど。

○委員（松田 勲君） そうですね。

○委員長（岡崎達義君） 金谷委員、何かありませんか。

○委員（金谷文則君） 私ちょっと今思うのは、やっぱり市民は吉井から山陽まで皆さん住んでおられるわけで、旧町単位の中学校単位というような形になると人数の差というのがかなり

多いので、住民の方が平たくそういう話を聞けるチャンスっていうのが随分違ってくるのかなあというふうに思います。それで、それも1年に1遍しか、じゃない、4年に1遍しか回ってこないというような形になると、本来の意味を持たないのかなというふうに思います。

○委員長（岡崎達義君） ただ、4年に1回ということでもないですよ。

○委員（金谷文則君） おおよそそういうふうな雰囲気になってくるんで、せっかく今の議会の内容について、議会の中でどういうふうなことがあって、どういう問題が地域の方が思っておられるのかというふうなことを含めて話をされるのであれば、やっぱり1年に1遍ぐらいはそれぞれの地区で皆さんと話をしたり報告できる会があったほうがいいのかというふうに私は思います。

単位、どういう地域でやるのかというのは、やっぱり集まりやすいのは中学校単位だろうと思いますけど、桜が丘とか高陽というところと相当の人数になるんで、なかなかそこら辺は配慮しないと来にくいのかなというふうには思います。

以上です。

○委員長（岡崎達義君） ほかに御意見。

はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） さっき言われたこともありますけど、やっぱり4年に1回ということはおそらく本来の意味から違うような気がするし、やっぱりせめて1年に1回ぐらいはしていたほうがいいんじゃないかなと思うんです。そういう中で、例えば中学校単位でいくと5地区になるので、5地区を今の議員で分けるとなると人数がやっぱり少ないんで、3人から4人までですよ。だから、例えば2カ所は参加するという形であれば、1人の議員がね、それなら網羅できるんじゃないかなと思って。言うても2日間だけですから、2回あってもね、もし日にちをずらしてね。

○委員（金谷文則君） 午前中こっちでやって、午後こっちとか、極端なことを言ったら。そしたら1日に2つ行けるわけじゃし、いう形ができるとなれば2日間やればいい話じゃから。

○委員（松田 勲君） だから、議員のほうで2会場に出ると。1会場は例えば地元に入るとか、もう一カ所は全然違うところに入るとかという形にすればまたいいんじゃないかな。

○委員長（岡崎達義君） ただ、私が考えるのには、これは個人的な意見ですよ、意見ですけど、18人しかいませんでしょう。それで、最低でも各委員会から2人出てこないという報告会に対する質疑応答のときに応答ができないわけです。そうすると、6人ずつ分けるということになりますよね。6人ずつ分けたら3地区しかできない。とすると、1年に1回ということになると3地区しかできない。だから、どこかで2回はしないとだめということにもなりますし。

○委員（金谷文則君） だから、今言ったように、2日もあれば十分に回れるわけで。

○委員長（岡崎達義君） ですから、そういう方法もやっぱりちょっと考えていかないかだめかなと。

○委員（松田 勲君） 各委員会に2人ずつというのはええと思います、それはそのほうが網羅してると思うんで。だから、それを2会場にすれば5会場である程度の人数で賄えるんじゃないかなという気がします。

○委員長（岡崎達義君） だから、また後でも出てきますけど、班編成ということも考えないとだめですし。

○委員（金谷文則君） それと、意見統一がしっかりしとかんといけんから。見解統一を。

○委員（松田 勲君） だから、単位をどういう単位にするかいうのを、ある程度こちらの委員会で決めとけばいいんじゃない。中学校か旧町単位か。

○委員（金谷文則君） 実施地区を……。

○委員長（岡崎達義君） ただ、山陽は人口が多いからね。だから、2地区に分けてもいいんじゃないかなと思ったね。

○委員（原田素代君） 会場が分けたほうがいいでしょう。

○委員（松田 勲君） よく来られればいいんだけど。

○委員（原田素代君） やって見た中で……。

○委員長（岡崎達義君） そうそう、運用の中で改善していけばいいなどは思ってるんですよ。

○委員（松田 勲君） でも、本当は地域によってカラーも違ってくるし、要望も違ってくるし、聞きたいことも違ってくると思うんで。最低でも地域単位じゃろうけど、旧町単位じゃろうけど、できたら中学校単位のほうが、わりと地域に密着した話になるんじゃないから。

○委員長（岡崎達義君） 中学校区単位で一応やってみますか。恐らく運用していく中でいろいろ不手際とかここをこうすればいいというのは出てきますので、またそれはそのときに徐々に改善していけばいいことだと思ってますので。とりあえず……。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ、松田委員。

○委員（松田 勲君） 中学校単位となるとちょっと問題というたら問題じゃないかもわからんけど、桜が丘中学校の学区というたら本当は東は入ってないはずです。本当は磐梨学区なんです。でも、実質はもう桜が丘学区に行ってる人多いんで、そこら辺がちょっと特別なのをしてもらってやったほうがいいんじゃないかなと。

○委員長（岡崎達義君） 要綱にそれ載せますかね。

○委員（原田素代君） ネオポリスエリアみたいな……。

○委員（松田 勲君） そうそう、ネオポリスエリアという形にする。じゃないと、何かおかしなことになる。

○委員（原田素代君） 矛盾になる人もいる。

○委員（松田 勲君） 言う人いるかなと思って。学校区でいうたら違うとか。学校に行って

る人はそう思うじゃろうけど、行ってない人はじゃあ磐梨学区じゃとかというて言われたら。

○委員長（岡崎達義君） これは……。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） いや、だからそういう学校区であるとか地域でとか、そういうような色というか、そういう意識が出てくるようなことをなるべく排除するような、そういう区割りというのをしていくべきじゃないんですか。もう区で考えるんですか、要望とか……。

○委員長（岡崎達義君） とりあえずそうでないと、どこで区割りというのができませんのでね。

○委員（原田素代君） 提案されたらどうですか。

○委員長（岡崎達義君） 何かいい方法があれば提案していただきたいと思います。

○委員（佐々木雄司君） いや、区、何でしょうね、区というよりは全体的な話の中で、区という考え方ではなくて場所という感じでやったほうがいいんじゃないんですか。そういう考え方で。

○委員長（岡崎達義君） ですから場所、場所……。

○委員（佐々木雄司君） いや、だからその場所という、その各地区でやるということならばそれでわかるんだけど、今の話の趣というのが全部区という考え方でやってますよね。何回も発言出てますように。

○委員（原田素代君） 中学校区だよ。

○議長（小田百合子君） する場所がという意味だったら。

○委員（佐々木雄司君） だから、そういう区割りではなくて、市民であればどこの場所に行ってもいいわけで、2回、3回行って別にも構わないわけで。

○委員長（岡崎達義君） それはもちろんです、それはもちろんそうです。

○委員（佐々木雄司君） そうでしょ。だから、それを区でくくってしまうとやっぱりこれは私は違う区のことだからという話にならないように、こっち発言中ですから、発言中ですから、そういう感じにこっちのほうで最初に配慮しとかないといけないでしょう。何がおかしいんですか、原田委員。

○委員（原田素代君） いや全然笑ってませんよ。

○委員（佐々木雄司君） 本当。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（岡崎達義君） いや、ですからその開催する地区をいうわけですよ。住民をここからここまでは来てください、ここから先は排除しますよというわけじゃない。

○委員（佐々木雄司君） いや、だからそういうような意識が芽生えないように……。

○委員長（岡崎達義君） もちろん、もちろん。だから、自由に参加していただければ結構なんです、どこの地区でも。

○委員（佐々木雄司君） いや、結構なんけども、そういう色合いを住民の方に感じさせないようにこちらのほうで配慮して整えていく必要があるんじゃないんですかということ。

○委員長（岡崎達義君） もちろん排除しますよ。

○委員（佐々木雄司君） そういうことです。

○委員長（岡崎達義君） だから、開催する地区をどういうふうにするかということで、中の住民の方にあなた方はここ地区が違いますから来なくていいですよという話じゃないです。だから、桜が丘地区でやってるときに周匝の方が、吉井の方が来られてもよろしいですし、吉井のときに開催してるときに山陽の方が来られてもいいわけです。それはもう自由です。

○委員（佐々木雄司君） いや、それはもう自由だし、もうそういうような理念だし、原理原則はそうなんですよ。でも、そういう感じに市民の方が感じてしまわないようにね。つくり込むんであればつくっていかなければいけないでしょということを言ってるんです。だから、そのところを配慮をね、やっぱりするべきではないんですかということをお願いしてるんですよ。

○委員長（岡崎達義君） ですから、運用の中で、いろいろ運用していく中で改善点が見つかれば改善していきましょうという話です。とりあえずは要綱つくっていかないと話になりませんので。ですから、とりあえずは要綱つくって改善するべきところはどんどん改善していきましょう、そういう話ですので、とりあえず要綱つくことに専念していきたいと思います。

それで、担当地区の、次、決定方法なんですけど、担当地区の決定方法って、これ……。

○委員（原田素代君） ああ、これは議員の割り振りですね。

○委員長（岡崎達義君） 議員の割り振りやな。これはもう新見市のように委員会で協議というのが一番いいですよ。

○委員（原田素代君） 委員会から出すということで。

○委員長（岡崎達義君） 委員会で協議して2人。

○副委員長（治徳義明君） 委員会というのは、何委員会。

○委員（松田 勲君） そりゃ常任委員会。

○委員長（岡崎達義君） 常任委員。

○副委員長（治徳義明君） 常任委員会。

○委員（原田素代君） 備前なんかは議運で毎回協議するって言ってる。全体でシャッフルして。

○委員長（岡崎達義君） それをやってるとまた大変なんでね。

○委員（原田素代君） だけど、きっと基本は各委員会が、今言ってることで、もう委員会に任せないで全体で動かそうとすると議運っていうのもありだね。

○議長（小田百合子君） くじっていうところが2つある。

○委員（原田素代君） 下手に重なる可能性はあるよね。

- 委員長（岡崎達義君） くじをやるとね、各委員会からということにならないことがあるんで。
- 委員（原田素代君） 大きいとこじゃない。議員が多いんじゃない。
- 副委員長（治徳義明君） 津山とかね。
- 委員（原田素代君） うちみたいにかけ持ちしなきゃ間に合わないようなとこ……。
- 委員長（岡崎達義君） それでは、一応委員会で協議していただくということにして、この委員会で協議する場合も1年ごとに変えてもいいし。そこはお任せよな。
- 委員（原田素代君） 委員会の改選があるよね、2年。
- 委員長（岡崎達義君） ほんなら、委員会で決めてもらうということに任すと。
- 委員（松田 勲君） 都合悪いときには出してもらわんといけん。
- 委員（金谷文則君） そりゃかわりの人がでてもらわにや……。
- 委員（松田 勲君） そういうふうにすりゃええが。各委員会で出れば。
- 委員（金谷文則君） 2人ずつ出して……。
- 委員長（岡崎達義君） ほんなら、班の編成方法は。何か質問あります。
- 委員（佐々木雄司君） ありますね。いいですか。
- 委員長（岡崎達義君） はい、どうぞ。
- 委員（佐々木雄司君） 委員会の報告じゃないんですよね。議会の報告で、一人一人の議員が、いや、そこら辺どうなんですかね。一人一人の議員がどういう活動してるか報告なのか……。
- 委員長（岡崎達義君） 違います。
- 委員（佐々木雄司君） じゃなくて議会全体の報告なんですか。議会全体の報告を、じゃあこの場合委員会で行くということになれば各委員会がその守備範囲というか、受け持っていることについて報告すると、こういう内容なんですか。
- 委員長（岡崎達義君） 違います。議会全体で報告して、質疑応答の場合は委員が答える、担当委員が。
- 委員（佐々木雄司君） ああ、委員が答えると。わかりました。
- 委員（原田素代君） 委員長報告のようなイメージですよ。本会議での委員長報告。
- 委員（松田 勲君） 委員会じゃないとわからんことがあるから。
- 委員長（岡崎達義君） 委員会でないと細かいことわからないことがありますのでね。それで、応答する場合に各委員会で専門的に答えれば答えると。
- 委員（松田 勲君） 議員個人の報告会じゃないから。あくまでも議会の報告会。
- 委員（金谷文則君） よく意思統一しとかんと、違う意見、私的な意見を答えられると大きな問題出てくるから、そこら辺はあとの話……。
- 委員（松田 勲君） どこも議会報告……。

○委員（原田素代君） 新年度からの委員長報告を12月にやるんなら二、三回分があつて、それを全市にやりましょうみたいな申し合わせがあるとそういうイレギュラーが少ないのかなあと。やるほうも安心だし。

○委員（松田 勲君） だから、市民の意見を聞くことはできても、余り自分の意見をどんどん言う場じゃないというのだけは。

○委員（原田素代君） そこは確認しといたほうが。

○委員（松田 勲君） 意見を言うのはそういう議会報告に……。

○委員（原田素代君） 宿題は結構持って帰るようにはなると思うんですよ。市民は好きなこと言うわけだから、承りますとって帰ることになる。

○委員（松田 勲君） これは各委員会に持ち帰って……。

○委員長（岡崎達義君） どこの委員会だったかな、そういうことも詳しく書いてるところもありましたよね。

○委員（佐々木雄司君） 玉野市ですね。

○委員長（岡崎達義君） 玉野市ですか。

○委員（佐々木雄司君） 一番下の反省事項が。

○委員長（岡崎達義君） 笠岡もそうですね。

○委員（松田 勲君） 実際こうだと……。

○議長（小田百合子君） 要望を。

○委員（佐々木雄司君） それはもう別途にしてもらったほうがいいんじゃないですか、この場は聞きませんからと。

○委員長（岡崎達義君） そうですよ。質疑……。

それで、班の編成方法は、担当地区の決定方法は委員会で協議すると。それから、班の編成方法は常任委員会から選出ということによろしいですね。

○副委員長（治徳義明君） 何班つくるというのは関係ない。

○委員長（岡崎達義君） ですから、それは6人、3班でしょうね。

○委員（原田素代君） ただ、普通議長はあれなのよね、別で全部参加するということになるんだけど。

○議長（小田百合子君） そしたら割れない。

○委員（原田素代君） だから、1つ5になるところが。

○委員長（岡崎達義君） それだったら2班に分けてもいいし。2班は多いか。

○委員（金谷文則君） 議長入ってもええよ、別に。意見言わにゃいい。意見言わにゃ。聞かれたら言やあええ。

○議長（小田百合子君） おったら聞かれる。

○委員（金谷文則君） それは基本的にはこういうスタンスですよとてからおりゃええが。

- 副委員長（治徳義明君） 五、六人は要るわ。それは五、六人はおらんと……。
- 委員（原田素代君） 五、六人は最低いないと。二、三人といえちよっと。
- 委員（松田 勲君） だから、各委員会2人ずつにしゃあ。
- 委員（金谷文則君） そうじゃ、それでいけば……。
- 委員長（岡崎達義君） ただ、問題は委員長、副委員長が入ってしまうとこないように、委員長と副委員長がきれいに分けるようにしないと。だから、委員長、副委員長が同じ班に入ってしまうといろいろ問題もあるから、委員長、副委員長は必ず分かれる。そこは各常任委員会で協議してもらってもよろしいです。ただ、新人の方もいらっしゃるわけですから、新人の方はやっぱりまだ内容がわかってない部分もあると思うんです。ベテランだから必ずしもみんなわかるとは限りませんが。だから、そこらあたりもやっぱり配慮してもらって、それは班編成のときにいろいろ配慮してもらえばいいと思います。
- 委員（金谷文則君） 班ということは2人掛ける3つだから6人が1班ということ。
- 委員長（岡崎達義君） そうですね。
- 副委員長（治徳義明君） 議長、副議長は皆行くわけですか。
- 委員（原田素代君） もちろん。
- 委員（金谷文則君） ちょっと、元にもどらんようにしてくれる。
- 委員（松田 勲君） ただ、重ならんように。委員長、副委員長は重ならんように。
- 議長（小田百合子君） とりあえずそれを決めてからにしましょう。
- 委員長（岡崎達義君） 6人掛ける3。
- 委員（金谷文則君） 2人掛ける3委員会の構成。
- 委員長（岡崎達義君） 班人数が6人で3班。
- 委員（佐々木雄司君） 1班6名ということですね。
- 委員長（岡崎達義君） そうですね。
- 委員（佐々木雄司君） で3班ですか。
- 委員長（岡崎達義君） はい。
- 委員（金谷文則君） 班分けの留意点は委員会に……。
- 委員長（岡崎達義君） 班分けの留意事項は各委員会に任すと。
- 委員（金谷文則君） 任せる。
- 議長（小田百合子君） 総社のところに書いてるように、議長、副議長、委員長、副委員長は別の班になるようにという、それはやっぱり留意点であげといたほうがいいんじゃないですかね。
- 委員長（岡崎達義君） そうですね。
- 委員（金谷文則君） 一緒になってるんじゃない。
- 委員（松田 勲君） 3グループになるんじゃないから。委員長、副委員長が一緒になるとこは

……。

○副委員長（治徳義明君）　うちでいうたら。

○委員（松田　勲君）　産業建設。

○副委員長（治徳義明君）　委員長さん、副委員長さん……。

○議長（小田百合子君）　ここに書いてるのは恐らく議長と副議長は別のところに、そして委員長と副委員長は別のところに、そういうことを書いてるんでしょ。

○委員（原田素代君）　そこでは別の委員長と委員長が重なっても……。

○委員（金谷文則君）　いやいや、ちょっと考えてみたら、産建のことを考えたら議長、副議長がおって、それで委員長、副委員長が重ならんように、難しい。

○委員（松田　勲君）　難しい。

○委員（金谷文則君）　できない。

○副委員長（治徳義明君）　これを書いたらおかしゅうなるで。

○委員（松田　勲君）　だから、せめて委員長、副委員長……。

○委員長（岡崎達義君）　いや、だけどあなたと山下君が一緒になって、どっかが一緒になることはあります。

○委員（松田　勲君）　だから……。

○副委員長（治徳義明君）　明確に分けるようにというて書いたらおかしくなりますよという話を言っただけで。

○委員長（岡崎達義君）　確かにね。

○委員（金谷文則君）　そこら辺は常識で……。

○委員（松田　勲君）　だから、議長、副議長、委員長にすりゃええ、副委員長は入れずに、議長、副議長、委員長はとりあえず3つに分かれときゃ問題ない。産業建設……。

○委員（金谷文則君）　それはそのほうが。そうじゃな。

　　そうすれば分かれるか。

○委員（松田　勲君）　そしたら委員長3つに分かれる。副委員長までいうたらちょっと無理かな。

○副委員長（治徳義明君）　だけど、ほかの委員会は委員長、副委員長分けなさいという話だから、最初の話はそんな話なん。

○委員長（岡崎達義君）　そこらあたりはまあ……。

○委員（松田　勲君）　委員会で考えれば……。

○副委員長（治徳義明君）　だから、細こう書かにゃあええわ。

○委員長（岡崎達義君）　余り最初から細かく書いてしまうと、それこそ縛りができてしまって前に進まなくなるんで、大ざっぱに行きたいなどは思ってる。だから、もうともかく運用していく中でここがちょっと不手際だなと、これはちょっと足りないなというところを加えてい

けば、要綱ですからね、いつでも変えれますんで。

○委員（松田 勲君） とりあえずこの議長、副議長、委員長までにしときゃ大丈夫ですかね。

○委員長（岡崎達義君） 条例だったら議会の賛否が要りますけど、要綱だったら皆さんの同意の上で変えることができますので。

それから、居住地をどう考えるか。これ先ほど佐々木委員が言われてましたけど、こういうことでしょう。

○委員（佐々木雄司君） ここです。だから、ここを念頭に置いて実施地区であるとか班割りであるとかというものを考えていかなければ、このところでちょっと矛盾が出るようじゃまずいなと思ったのは冒頭にここをどうしますかということをもっと最初に意見統一しておいてはと。

○委員長（岡崎達義君） これはもう決めなくていいんじゃないですか。

○委員（金谷文則君） 別になしというところでもいいんじゃない。

○委員長（岡崎達義君） もう決めずにね、ですから運用していく中でやっぱりやっばりやっばりいいんじゃないかなと思うんですよ。余り決めてしまうとまたいろいろ、ここだけ、この地区へこの人たちが皆寄ってしまったということもあり得るんで。

○委員（佐々木雄司君） そうなんですよ、居住人員が山陽とほかの地域というところと全く違う、人口密度が違うところがありましてね、先ほどの区割りですか、実施地区割りですか、のところでちょっと意見が出たように多いところ少ないところがあるなということで、そのところにまた地元の選出の議員が絡むという話になったら固定してしまって、考え方すると、それはいろいろ難しい問題だというのはわかるんですけども、ただ僕が一番皆さんに言いたいのは、我々当事者としてこういう地域とかこういうような何か集まりをするときにはやっぱり自分の選挙であるとか支持であるとかというものが必ずかかわってくるんだということ、必ずついてくるものなんだということ、念頭に置いておかなければいけないと思うんです。その中で、倫理観というのが正しい言い方なのかどうかかわからないけども、そういった選挙にこれはもう公正中立なものなんだからというような意識を持って、そういうところにはなるべく身をかわす、みずからが規範意識、規範意識ではないんですけど、身をかわすような、そういうものを一人一人がやっぱり持っていかなければ、何かやっぱり外から見て何かこういうものがぼっこう利用されとるなというような印象を与えてしまうと逆に何か選挙の道具というようなものになったりしてくる可能性があるんで、僕はそこを一番気にしてる場所なんです。

○委員長（岡崎達義君） ただ、3班に分けますでしょう。3班に分けて、今回は例えば山陽地区と、次の回は熊山地区、次はというふうに回っていきますので、そこはもう平等になると思うんですよ。別に熊山地区から選出された議員が熊山地区ですべて報告会をするわけじゃないですから。順番にこう回っていくことになりますから。

はい、どうぞ、原田委員。

○委員（原田素代君） だから、私も基本は当該地区には行かないほうがいいのかというのベースとしてはそれはあったほうがいいと思うんです。ただ、物理的に無理ですよ、山陽が膨大に多くて、あとが1人、2人しかいないんだから。だから、そこは運用上、佐々木委員がおっしゃるように、できればその配慮を、4年間の間に回るときにずっと熊山の人が熊山に常にいるような、そこは運用上の配慮が、だからベースとしてはできるだけずらすというのは前提がそれはあってもいいんじゃないかなと思います。

○委員長（岡崎達義君） 私でも、佐々木委員が言われるように、地区へ出て行って、おお、何ちゃん頑張れよとかというような声がかかるような状態ではちょっと困りますんでね。ですから、そういうものはやっぱりちょっと運用的に配慮していければなどは思ってます。

○委員（佐々木雄司君） もう僕が常に今まで声を上げさせていただいたのはその部分のところなんで、皆さんがそういったぐあいに理解を示していただければ本当にありがたいことです。本当にそういう感じで理解を示していただいてありがとうございます。ひとつそういう方向性でお願いしたいと思います。

○委員長（岡崎達義君） ですから、特に今回は規定はしないということで行きたいと思いません。

○委員（佐々木雄司君） ただし配慮はするというので。

○委員長（岡崎達義君） はい、そうです。

○委員（松田 勲君） できるだけ全員が4年間のうちに全地区回れるぐらいに思うたら。

○委員長（岡崎達義君） 重ならないように、地域。

○委員（松田 勲君） 同じところばかり行ってるんじゃない。

○委員（原田素代君） だから、大変よ。細かいところを決めるって。

次は何ですか。

○委員長（岡崎達義君） 次は開催時間なんですけど、2時間以内、2時間程度というよりも2時間以内で切ったらどうかなと思うんですけどね。

○副委員長（治徳義明君） そのほうがええですね。

○委員（松田 勲君） 1時間半でもいいんじゃないですかね。

○委員長（岡崎達義君） だから、1時間半ぐらいを……。

○議長（小田百合子君） 1時間半にしとっても絶対延びるよ。そしたら結局2時間以内になるわけよ。

○委員（原田素代君） だから、2時間以内に……。

○議長（小田百合子君） 1時間半って決めとっても延びるよ。それを時間も考えとかないと。最初から2時間とかすると2時間超すから。

○委員長（岡崎達義君） だから、私が思うのに、1時間半を報告に充てて、あと30分を質疑

応答に充てると。

- 委員（原田素代君） 1時間半も報告しない。
- 委員（松田 勲君） 報告そんなに無理じゃろ。
- 議長（小田百合子君） 聞ってるほうもつらいわよ。
- 委員（松田 勲君） 報告のほうが30分。
- 委員長（岡崎達義君） ほんなら、1時間半でいいか。
- 副委員長（治徳義明君） 1時間半でいい。
- 委員（松田 勲君） 一方通行になっちゃう。
- 委員（原田素代君） だから、最初に1時間半を予定しておりますというふうに言って、1時間半になったとき、じゃあそろそろ締めますよって2時間以内になる……。
- 議長（小田百合子君） 最後の質問を……。
- 委員（松田 勲君） だから、1時間半に。
- 委員長（岡崎達義君） 1時間半にしよう。よろしいですか。
- 委員（松田 勲君） 人間がずっと聞けるのは1時間半まで。2時間っていったら大学の…
…。
- 委員（原田素代君） そうそう、90分……。
- 議長（小田百合子君） トイレ休憩とらなきゃいけなくなっちゃうし。
- 委員（原田素代君） 年とると60分。
- 委員長（岡崎達義君） 事務局の同行は、1名同行していただくか、もう全くなしか。
- 委員（原田素代君） 要るんでしょうかね、事務局員。資料の配布。
- 委員長（岡崎達義君） 記録はもう。
- 委員（原田素代君） 記録はどうするの。
- 委員長（岡崎達義君） 記録は……。
- 委員（原田素代君） とっとくの。
- 委員（松田 勲君） だから要望とかもしあったら。
- 委員（原田素代君） 記録はもう手書きだよ。テープ起こしなんかできないもんね。そして、語れないわな。それはいけんわ、やっぱり。やっぱり事務局の人が来てくれないと。
- 副委員長（治徳義明君） ほとんどが同行じゃないですか。
- 委員（原田素代君） だから、記録ができない。
- 委員長（岡崎達義君） だから、1名同行してもらえますか。
- 議長（小田百合子君） 市民の中には、録音されてるのを嫌がって発言しない人もいる。
- 委員（原田素代君） だから、録音はしないで、録音したら後が大変になる。だから、記録だけ。
- 委員長（岡崎達義君） 1名同行ということで。

- 委員（原田素代君） 主に記録が目的。
- 委員（松田 勲君） 録音も禁止にしといたら……。
- 委員（原田素代君） 禁止っていうと抵抗があるから……。
- 委員（松田 勲君） 御遠慮下さい。
- 委員（原田素代君） 議会は録音しませんと言えればいいじゃ。
- 委員（佐々木雄司君） 1時間半ですか。
- 委員長（岡崎達義君） 1時間半にします。
- 委員（佐々木雄司君） 決めるとのことだから1時間半。
- 委員長（岡崎達義君） 報告は、やっぱりさっきも言われてたように、30分ぐらいで報告は済むと思うんですよ。それで、執行部じゃないですから、詳しいことがやっぱり報告はできないわけですよ、内部まで。ですから、大まかな動き、市の動きとか、それから議会の動きとかというのを報告するだけになると思いますので、1時間半程度。
- 委員（佐々木雄司君） ということになれば、報告をする準備の会議というのがまた別途必要になってきますね、30分ぐらいでこういう報告をしましょうという。
- 委員長（岡崎達義君） そういうことです。ですから、それも班編成した中で班の代表が出てきて、どういう報告にするかということがまた協議することになると。
- 副委員長（治徳義明君） 報告というのは、全般、何かテーマを決めてするわけですか。
- 委員長（岡崎達義君） それも含めて協議しないと。
- 委員（原田素代君） 時期にもよるしね。
- 委員（松田 勲君） だから、大きな問題があったときには必ず……。
- 委員長（岡崎達義君） だから、例えば今回の病院問題みたいなものが大きなテーマが持ち上がってくると、どこの市民も聞きたいと思ってますよ、どういうふうになるのか。だから、そういうのをメインテーマで報告するとか。
- 副委員長（治徳義明君） それは難しいですね。
- 委員（原田素代君） だから、こういうことは執行部に聞いてくれとかわすとか、そういうことも含めて想定してね。
- 副委員長（治徳義明君） いやいや、報告がやっぱり一般的な報告とある程度テーマ決めてやっていかんやあけんし、テーマもとんちんかんなテーマをしとった、さっき言うた、物すごい市として物すごい大きな問題があるのにあんたら何考えとんならというような話にもなるしね。
- 委員長（岡崎達義君） 難しいです。
- 委員（松田 勲君） こういうことを話しよう。こうこうこうで今なってるからということをしちっと。
- 委員（原田素代君） さばき方をね。こういう質問を……。

○委員長（岡崎達義君） それで、今一応これで、反省事項はともかくとして、一応これで大まかなものは決まったんですが、あと私報告会のこの資料をもらってますよね、前回。この瀬戸内とか、それからあと井原とかというのは物すごい細かいきめ方をしてるんですよね。余り細かく決めてしまうとまた大変なんで、私八女市議会ぐらいの、最後23ページ、これぐらいで決めていったらいいんじゃないかなと思うんですよ、目的ももう……。

○委員（金谷文則君） こういうふうにとまとめて次回……。

○委員長（岡崎達義君） 次回これをこういうまとめ方をしてもらって、たたき台をつくってもらった上でもう一度検討していくということでどうかなと思ってます。ですから、例えば第4条、八女の最後の第4条の議会の活動状況とか議案等の審議状況とか、こういうものを報告するという形で決めるとか。それから、佐々木委員が言われてたように、そういうことも一つの何らかの形で入れといてもよろしいですし。偏らないように努力するとか。各地区に努力目標みたいな形で書いていってもよろしいし。

○委員（佐々木雄司君） それぞれにそういうように……。

○委員長（岡崎達義君） それはやむを得んですけれどね。なるべくそれは重ならないように。だから、とりあえずつくってもらって、あと検討してもらって、検討した上で最終的に決めていけばいい。

○委員（佐々木雄司君） 基本条例の3条の3に、一部団体及び地域の代表にとらわれずというような見方もされてますので、そういうようなものを遵守するとかというような書き方をしておけば、あと解釈とか、そのときの運用で取り回しきくのかなあと思ったりもするわけですが。

○委員長（岡崎達義君） そういうことですので、事務局でたたき台をひとつつくっていただけますか。今の基本……。

○議会事務局長（富山義昭君） 八女市の要綱に基づいたような形でいいということですか。

○委員長（岡崎達義君） それで、ここはちょっと足らないからこれをつけ加えておいたほうがいいんじゃないかというところはもう事務局で、とりあえずたたき台ですので、つけ加えていただいて。

何かほかに。

○委員（原田素代君） 基本条例の説明をとりあえずメインにしましょう、今回の報告会で。

○委員長（岡崎達義君） 1回目は。

○委員（原田素代君） 毎回でもやってもいいんだけど。

○委員（松田 勲君） 1つはそれは入れといたほうがいいかなと。基本条例ができたということでどういう目的で……。

○委員長（岡崎達義君） それは例えばどこでどういうふうにするかというのは、例えば議運で決めるとかいつするとかというのは議運でやっぱり決めないと。

- 委員（原田素代君） 何を。中身の話。
- 委員長（岡崎達義君） 中身の話。
- 委員（原田素代君） いや、提案、提案。だから、その中の一つに基本条例は重立った説明を、こんなところが目新しいというか、こんなことを目的にというようなことが報告の一つには必ずあったほうがいいよね。
- 副委員長（治徳義明君） 報告会で。
- 委員（原田素代君） うん、そうそう、そうそう。
- 副委員長（治徳義明君） 開会の挨拶でしたら……。
- 委員（松田 勲君） 挨拶の中でもええんじゃけど、そういったことをちょっと……。
- 委員（原田素代君） きちんと報告した……。
- 委員（松田 勲君） きちんと報告したほうが……。
- 委員長（岡崎達義君） それで、今も言いましたけど、一応の内容とか期日とかというのは議運で決めてもらうということにしたほうがいいんですかね。議運に出して、基本的にはそうですよね、日程。
- 委員（松田 勲君） 一応案として委員会から出して、あとは議運で諮ってもらって、全協で。
- 委員長（岡崎達義君） 委員会じゃない、今度班会みたいになる。各委員会で決められた……。
- 委員（原田素代君） 各委員会のものを議運に持ち寄るんですか。
- 委員（佐々木雄司君） それをきょう決めとかないといけないんじゃ……。
- 委員（原田素代君） どっちが先。議運で各班会をやってもらって。
- 委員長（岡崎達義君） そこをどういうふうにするか。
- 委員（原田素代君） まず議運がないとでも班会が開けないわな。だから、議運で整理して、3つの班をつくって、今度は3つの班がそれぞれ独自に確認してもらったものを持ち寄って詳細の調整をして、じゃあこれでいきましょうぐらいの話。
- 委員長（岡崎達義君） それかまた、もしくは議運で一応テーマを、大きなテーマを決めといて、今回はこういう報告をしますというのを決めといて、それで時期はこういう時期にしますというのを日程調整してもらって、それでそれを持って帰って各班で検討する。
- 委員（原田素代君） それが現実的ですよ。
- 議長（小田百合子君） どっちみち議運には私から諮問しなきゃいけないわけだから。
- 委員（原田素代君） 要綱の中に議運の位置づけをきちっとうたってもらわないと。
- 委員長（岡崎達義君） どっか入ってたと思うな、これ。どこかの。
- 委員（原田素代君） そういう班の編成……。
- 委員長（岡崎達義君） 議会運営委員会で決めるというのをちょっと。

それから、報告会を受けて報告会の報告をどこかでしないとだめですし。

○委員（原田素代君） それは議会だよりも手ごろでいいんじゃないですか。

○委員長（岡崎達義君） ですから、それをまとめるのもね、各例えば3班あって、今回は山陽とそれから吉井と熊山とでやるということになると、これ各班ごとにまとめて報告をしないと。その報告をする文章を書く人も決めていかないとだめだし。各班の中で決めていくということになりますし。

○委員（原田素代君） 直近の本会議で報告するという事にすれば……。

○委員長（岡崎達義君） 難しい。

○委員（原田素代君） 議会だよりも載るよね。

○委員長（岡崎達義君） 載るでしょう。

○委員（原田素代君） 本会議の報告だけ。

○議長（小田百合子君） 広報委員のメンバーが2人ずつ各委員会から入ってるわけだから、記事は書けるでしょう。

○委員（原田素代君） 広報委員が分担しなくてもいいんじゃないの。大変だな、広報委員。

○議長（小田百合子君） 広報委員会の中に入る仕事。

○委員（原田素代君） そう。

○委員長（岡崎達義君） そうだね、どっちかというよね。

しっかり鍛えられると思います。

そういうことで、一応まとめてもらいますか。何にもなかったら検討のしようがないから。

○委員（原田素代君） 大体このままスムーズにいくとしたらいつぐらいになると思ったらいんですか。

○委員長（岡崎達義君） ですから、次は8月、後で日程調整しますけど、8月にやってたたき台が出てきて、そこでもう一度検討して、加えるべきものは加え、削除すべきものは削除した上でやると、9月議会には、9月議会の途中でもう一回開くことになっていきますけど、9月中にはできるんじゃないですかね。12月に実際の運用ということになるでしょうね。12月の議会が終わって1月、2月でもよろしいですし、その時期でしょうね。

○委員（佐々木雄司君） この出てきたもの、次に出てきたものを云々という話なんだけど、例えばこの八女市の一番最後のページなんですけど、成果効果の10条ですね。これってさっきの何か1枚ものにもあったんです。要望どうするんですか、出てきますよ、必ず。

○委員長（岡崎達義君） ですから、要望なんかは取りまとめて執行部へ持っていくと。

○委員（佐々木雄司君） 聞くんですか、その場で。

○委員長（岡崎達義君） うん。

○委員（佐々木雄司君） その場で聞くんですか。

○委員長（岡崎達義君） 聞きおくという形になるでしょうね。

○委員（原田素代君） だって、市民は言いたいがために来るんじゃないの。こちら話を聞きに来るんですか。

○委員（佐々木雄司君） そのところをうまいぐあいにさばかんと。

○委員長（岡崎達義君） 必ず出てくると思う。

○委員（原田素代君） だから、違うんだけど、でもここの反省事項に書いてあるように。

○委員（金谷文則君） それは反省でそれをしちゃあ、だからそういう反省をせにゃいかんように……。

○副委員長（治徳義明君） 要望が出たからというて全部市に持っていくというわけじゃない。行けるものと行けんもんがあるわけじゃから、現実的には。

○委員長（岡崎達義君） だから、そこらあたりは……。

○委員（松田 勲君） 一方通行は難しいと思う。

○委員長（岡崎達義君） 難しいと思うな。

○委員（松田 勲君） こっちが勝手にどんどんしゃべって報告終わりますいうのは……。

○委員長（岡崎達義君） それで質疑応答だけでは絶対済まんと思う。

○委員（松田 勲君） それに対して質疑はあると思う。でも、それ以外に要望もあると思う。要望についてとめるというのは難しいと思う。

○委員長（岡崎達義君） だから、そこは司会のときに一応要望は承りますが皆様方の要望が全て実現できるとは限りませんというような趣旨の発言をした上でなるべく控えてくださいと。

○委員（金谷文則君） もし要望とかそういうのがあるなら事前に出してくださいということ……。

○委員長（岡崎達義君） それはまた難しいな。

○委員（金谷文則君） そうでもせんかったら、でもやりようがないよ。

○委員（松田 勲君） でも、その場で答えることはどっちみち無理じゃと思う。

○委員（金谷文則君） どっちにしても答えられんわ。

○委員（松田 勲君） 答えられん。執行部じゃないから。

○委員（佐々木雄司君） 持って帰って、議員が持って帰ってそれが反映されんかったという話になったら、議会は何しょんならって話にまた今度なつてきますからね。だから、それとこれはまた別に考えたほうが僕はいいんじゃないかなと思うんですけどね。だから、何でそんな話を急にしたかといったら、ここに取りまとめ市長に文書で報告するものと。これをひな台にしてたたき上げつくるのであれば、ここを最初に入れておくか、今の時点で決められる話じゃないですか。そう思ってちょっとどうするのかなと気になったんです。

○議長（小田百合子君） 要望にも執行部に対するような要望と議会そのものに対する要望とあると思うんです。だから、議会に対しての要望だったら持って帰ってすぐ協議しますと、そ

れは言えるんよ、全部聞いた上で、持って帰って。

○委員（佐々木雄司君） 議会に関するものは我々で何とかなる……。

○議長（小田百合子君） 問題は執行部に対しての要望をぼんぼん出してこられると、そのかわし方を考えておかないと。

○副委員長（治徳義明君） 可能性はあるな。

○委員長（岡崎達義君） だから、どういうふうを書くかな。市長に文書で報告するというのをこれ削っておけばいいんじゃないな。

○委員（原田素代君） 執行部についてはここではお受けができないと。

○委員長（岡崎達義君） そういうことやな。

○委員（原田素代君） 議会に対しての要望は……。

○委員長（岡崎達義君） 要望だったらお受けしますと。

○委員（原田素代君） そこはそういうふうに。

○委員（金谷文則君） だから、それが議会に対しての要望があれば受け取って、それを議長に報告するという形でしょ。議長がその先はどうするか……。

○委員長（岡崎達義君） そこらあたりもちよっと何か文章を検討しといてもらえますか、済みませんが。

○委員（松田 勲君） よそはどうしよるかやな。これ下見たらほとんどある。

○委員（金谷文則君） 困ったんじゃないと思う。

○委員長（岡崎達義君） 困ると思うよ、そりゃあ。

○副委員長（治徳義明君） 僕がちょっとお聞きしたところでは、延々と1時間半ぐらい一人の方がしゃべられて、もう延々といろんなことを言われてました、現実には。それも議会のOBの方でした。

○委員（原田素代君） 想像つきますね。

○議長（小田百合子君） 時間制限したらいい。

○委員（松田 勲君） 司会がきちとこう……。

○委員（原田素代君） 司会がきちと仕切らないと。

○委員長（岡崎達義君） 1人3分以内とかね。

○委員（原田素代君） 常識的に長いなと思ったらそろそろって。

○委員（松田 勲君） だから、議員の中司会せにゃいけん……。

○委員（金谷文則君） それぞれ議長や副議長や委員長がおるんじゃないから、その人らがちゃんと仕切りゃいい。

○委員長（岡崎達義君） それしかないよな。

○委員（金谷文則君） それしかないが。

○議長（小田百合子君） そういうふうにはなっておりませんって。

○委員長（岡崎達義君） それしかない。

○委員（金谷文則君） それしかないと思うよ。

○委員（松田 勲君） どっかで整理せんと、そりゃたまらん。

○委員（原田素代君） 議員がしゃべり過ぎないように、そこはよく言っとかないとね。

○委員長（岡崎達義君） とりあえずやってみんことにはもう前は進まんと思う。

○委員（金谷文則君） 簡単な話じゃが、今決まったことをやりゃあいいんじゃから。

○委員（松田 勲君） だから、難しゅうせんと……。

○委員長（岡崎達義君） だから、条文ももう簡単にしといて、とりあえずやってみて、二、三回、やってみてここはちょっと不備だからつけ加えていこう、これはちょっと要らんから切ってしまうというような方法でやっていけば、少しスマートな部分ができるんじゃないかなとは思ってます。とりあえずそれで事務局につくってもらいますので、よろしく願います。

それから、次の8月の日程なんですけど、日程一応ここへもらっとんです。もらってますので、大体の日程の予定ですけど。お盆を過ぎて19日、それから23日、それから26日、それから28日、ここらあたりがあいとんですけど。

○委員（原田素代君） 私19と28がちょっとどうしても予定入れさせていただいてるんで、それ以外でしたらいつでもいいです。

○委員長（岡崎達義君） 皆さんどうですか。

○副委員長（治徳義明君） 皆さん言うてもろうて。

○委員（原田素代君） 23か26、それならどちらでもお受けします。

○委員長（岡崎達義君） 23か26、どちらが。佐々木委員どうですか。

○委員（佐々木雄司君） ちょっと待って。

○議会事務局長（富山義昭君） この委員会は、常任委員会と違ってこのメンバーだけです。日程は皆さんでいいときが一番決めやすいんですけど。委員会の場合は執行部の出席がありますので日程が決めにくいんですけど、広報とこの特別委員会はもう皆さんの都合だけで決めていただけますので。

○委員長（岡崎達義君） わかりました。

○委員（金谷文則君） 23か26、はい、どっち。

○委員（佐々木雄司君） 23、26どっちもオッケーです。

○委員（金谷文則君） 23。

○委員長（岡崎達義君） 23。朝でよろしい。

○委員（金谷文則君） 朝にしましょう。

○委員長（岡崎達義君） 10時。では、23日10時ということで。

そういうことで、23日の10時から次回は開かせていただきたいと思います。

そういうことですので、どうぞよろしくお願いいたします。きょうはどうもありがとうございました。

午後4時2分 閉会